

進んでいます老朽化 進めています公共施設の再配置 vol.2

公共施設再配置のこれまでの効果や現在の状況などについて、平成28(2016)年3月に引き続きお知らせします。

1 ハコモノを導く・練る

一 進めています再配置～前期実行プランの成果一

「秦野市公共施設再配置計画」は、現在2020年までの第1期基本計画の期間中です。さらに、この期間を前期と後期に分割して計画を推進しています。

2015年までの前期実行プランでは、地域活動支援センターの民営化、保健福祉センターへの郵便局の誘致、なでしこ会館及び曾屋ふれあい会館の廃止、すずはり荘の地域への移譲など、一定の成果を挙げることができました。

この成果を数字で表すと、床面積の削減が、学校の教室30教室分に相当する約2200㎡、建設費と管理運営費の削減による効果額が約10億7700万円となります。

こうして数字を見ると順調に進んでいるように見えますが、現在推進している後期実行プラン(2016年から2020年)の目標値は、次のとおりとなっています。目標を達成するためには、前期実行プランを上回る成果を上げる必要があることが分かります。

目標値	建設費	管理運営費	合計	削減面積
	1億4200万円	11億8600万円	13億2800万円	2300㎡



保健福祉センターの郵便局



効果はあったけど、計画は始まったばかり。今後も将来の子どもたちのために、がんばって取り組んでほしい!

2 地域で運営する

一 シンボル事業③ 小規模地域施設の移譲と開放一

「児童館」や「老人いこいの家」といった「小規模地域施設」は、地域に密着した大切な役割を担っています。しかしながら、①の削減面積の目標達成のためには、小規模地域施設をただ更新していくことは大変困難です。

そこで、地域住民との協働による機能維持を目的とし、地域の実情に合わせた、地域による自由度の高い施設運営を実現するため、地域(自治会等)への移譲を進めています。

- ・法人格を得た地域自治会に建物を無償譲渡(敷地が市有地の場合、無償貸付)します。
- ・自治会館として使用しながら、従前の機能の一部を自治会との協働により維持することが可能となります。

★平成28(2016)年4月「老人いこいの家すずはり荘」移譲

★平成29(2017)年9月「沼代児童館」移譲

沼代自治会館(旧沼代児童館)の利用形態

児童福祉法に基づく児童館よりも、多機能で多用途な地域のためのコミュニティ施設への転換を図りました。



沼代自治会館

なお、児童館活動については、市が児童厚生員を派遣しています。

	午前	午後	夜間
2階	自治会専用スペース(サロン活動・会合・事務所)		
1階	・コミュニティ保育 ・児童館	・児童館	・自治会
	・一般開放など ・自治会	・一般開放など ・自治会	

3 新たな機能の創出

一 はだのっ子への贈り物～スマートライブラリーの有効活用一

平成29(2017)年12月24日、クリスマス・イブの日に、受験用の参考書・問題集を貸し出す「無人貸出しサービス」を備えた新たな学習室がはだのこども館にオープンしました。

この機能は、「スマートライブラリー実証実験」で使用した無人貸出機をこども館学習室に移設したものです。ふるさと納税の制度を利用したクラウド・ファンディングを実施し、趣旨に賛同する全国の方々からの寄付を募って、移設等の費用約478万円を調達しました。

また、参考書・問題集は市内企業からの寄付金100万円を活用して購入していますので、まさに全国のサンタからの「はだのっ子への贈り物」といえます。

きっかけは、「スマートライブラリー実証実験」で、無人による貸出しサービスが高校生に好まれたことです。家庭環境に左右されない学習環境を提供し、青少年の健全育成を図るという目的に、多くの人が賛同してくださった結果でもあります。

こども館学習室を利用して受験勉強に励んだ「はだのっ子」たちは、応援して下さる方が大勢いることを知り、社会への感謝を胸に大人になることと思います。公共施設の再配置の一環として実施した「スマートライブラリー実証実験」から、心温まる新たな機能が生まれました。



貸出機と返却機



再整備された学習室



机やいすもきれいになって、より勉強できる環境になったよ。機械を使って気軽に貸出し・返却ができるので、受験生に好評!

4 公共施設再配置の推進

一 まもなく実現!現在の取り組み一

再配置に関する効果額や、これまでの実績を見ていただきました。ここでは、現在進んでいる公共施設再配置に関する事業を紹介します。

西中学校多機能型体育館の整備

西中学校の武道場と西公民館の機能に加えて、地域防災機能を備えた多機能型体育館を、将来的な小中一体化を見据えた規模で整備しています。2年後(2020年)の秋に完成予定となっています。



西中学校多機能型体育館イメージ図

みなみがおか幼稚園を公私連携幼保連携型認定こども園に

昭和57(1982)年4月に開園したみなみがおか幼稚園は、幼児教育上の集団性の確保と、高まる保育ニーズへの対応などから、社会福祉法人が運営を担う公私連携幼保連携型認定こども園として来年4月に生まれ変わります。

園舎は運営する社会福祉法人に譲渡しますが、土地を貸し付けることで年額約350万円の収入があるほか、公共施設の床面積と運営経費の削減効果も見込まれます。



こども園となるみなみがおか幼稚園

～ 今後10年間で多くの公共施設が建替え時期の目安を迎えはじめます ～

施設名	延床面積	建築年度	築年数
南小学校東棟	248㎡	昭和30(1955)	63年
本町幼稚園北棟	218㎡	昭和37(1962)	56年
西幼稚園中央棟	178㎡	昭和41(1966)	52年
西幼稚園西棟	326㎡	昭和41(1966)	52年
西小学校北棟	2346㎡	昭和42(1967)	51年
西中学校中央棟	2749㎡	昭和43(1968)	50年
広畑小学校体育館※	778㎡	昭和49(1974)	44年
渋沢小学校体育館※	788㎡	昭和50(1975)	43年
大根小学校体育館※	764㎡	昭和53(1978)	40年
本町小学校体育館※	913㎡	昭和55(1980)	38年
南小学校体育館※	763㎡	昭和55(1980)	38年
上小学校体育館※	763㎡	昭和55(1980)	38年

※鉄骨造(無印は鉄筋コンクリート造)

左の表は、今後10年間で建替え時期の目安となる築年数(鉄筋コンクリート造:60年、鉄骨造:45年)を迎える主な公共施設の一覧です。すべての施設で耐震性は確保されていますが、費用の平準化を図るため、建替え時期を迎えた施設は、小・中学校を中心に地域のコミュニティ機能を付加して複合化することを基本として、具体的な建替え時期については、周辺の公共施設の老朽化の状況などから総合的に判断することになります。

人口急増期に集中して建ててきた公共施設は、老朽化が進行しています。施設の建替え費用のほか、大規模な修繕や改修のためにも多額の財源が必要です。市では、財政運営がより厳しいものとなる中で、床面積を削減しながら公共施設の機能を適切に維持していくための取組を進めています。



「未来につなぐ市民力と職員力のたすき」丹沢つなぐ君

公共施設再配置の取組は、市のホームページで詳しく紹介しているのよ。



「秦野市 公共施設再配置」で検索してね。

問い合わせ 公共施設マネジメント課 ☎(82)5122